

平成 25 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2013年4月～2014年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただきますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 岡山市立福島小学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中等教育学校
 教員養成 技術/職業教育
 その他 ()

住所 〒 702-8046
岡山市南区立川町3-37

E-mail : fukusimas@city-okayama.ed.jp

Website : http://www.city-okayama.ed.jp/~fukusimas/

児童生徒数：男子 183 名 女子 211 名 合
計 314 名

児童・生徒の年齢 6 歳～ 12 歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

※当報告書についてはユネスコスクールホームページに掲載するため、活動内容につ

いては、添付資料ではなく本報告書にご記入願います。

1 本校のE S Dの特徴

福島小学校では、総合的な学習の時間に、『地域とつながろう』プロジェクトと題し、高齢者福祉・障害者理解・環境保全・国際理解を中心とした実践活動を通して、自分たちの身近な人、社会、自然について考え、自分自身を見つめ、社会の中で自分にできることはないかと考え、実践する力を身につけてきた。また、1年間の学習の成果を、毎年2月に開催される「福島子どもフォーラム」で全校児童・保護者・地域の人たちに発表したり、意見交換したりして、学びを広げたり深めたりしてきた。

そういった実践活動の中、地域の方々と意見交換をしたり一緒に考えたりすることで、自分も地域の一員であるという自覚を高め、地域を愛する心が育ってきている。また、身近な人から国際協力に携わる人まで多種多様な人たちとつながりを持つことで、他人と協調しつつ自律的に社会生活を送っていくために必要な社会性を身につけることができた。さらに、地域協働学校運営委員の方々「福島子どもフォーラム」に参加することで、本校のE S D教育を中学校区全体に広げることができ、地域でも持続可能な社会を作ろうという意識が高まってきている。

そこで、2014年度は、地域と関わり、地域のよさを見直すことで「地域とつながろう」ということを学習の柱に、各学年の総合的な学習を中心に地域に目を向けて、「地域を愛し、自分から進んで地域のために貢献しようとする子ども」を育成することとした。地域の福祉や環境、そしてそこから発展して国際協力について考え、自分たちの暮らしを見つめなおし、自分にできることを実践することは、持続可能な社会を担う児童の育成につながるものとする。

2 ユネスコスクールとしての活動（E S D）の全体計画

本校では、E S D教育の柱として、福祉、環境、国際に関する3つのプロジェクトを実践している。

○総合的な学習 『地域とつながろう』プロジェクト ～福祉・環境・国際～

『地域 みんなが幸せに』プロジェクト

第1学年：「みんなだいすき」（27時間）

第2学年：「野菜を作ったよ」（40時間）

第3学年：「地域に暮らす高齢者」（70時間）

第4学年：「障害のある人の暮らし方と生き方」（70時間）

『地域の環境を守ろう』プロジェクト

第5学年：「地域の自然環境と環境保全」（70時間）

『身近な人のために』プロジェクト

第6学年：「世界の子どもの現実と国際協力」（70時間）

○福島子どもフォーラム

全校児童が生活科や総合的な学習の時間の取組の発表を行う。地域や保護者の方も参加できる意見交換会を行う。（2月開催）

3 特徴的な活動（E S D）事例の紹介

○第5学年の総合的な学習の時間の取組

ねらい・・・環境問題について調べたり、自分たちにできることを実践したりする活動を通して、身近な環境を守ることの大切さに気づき、自分の生活に生かすことができる子どもを育てる。

1学期に、DVDなどの視聴覚教材を用いて、地球には温暖化や動物の絶滅危機など環境に関する課題がたくさんあることを知り、「未来の地球や自然のために、環境問題について、今、自分たちにできることをしよう」というテーマを設定し、身近な環境問題について個々に調べ学習を行った。調べたことを一人一人がポスターにまとめ、ポスターセッションを行い、様々な環境問題について共通理解をした。そして、「わたしたちの身近な環境はどのようなのだろうか」と考え、自分たちにできることについて話し合っ

た。

2学期には、製紙工場の方やリサイクル会社の方との交流を通して、身近な環境問題を解決していくために自分たちにもできることがあるだろうと考え、「自分たちができる持続可能な活動」というキーワードを意識し、実践活動を行った。現在も古紙回収、廃食油や紙パックやペットボトルのリサイクル、地域の公園や川のゴミ拾い、節電や節水の呼びかけ、エコバッグや公共交通機関の利用促進などの活動を継続している。

古紙のリサイクルについては、学校や家庭で出る古紙をリサイクルすることが温暖化防止や森林や生態系の保全につながると考え、全校に呼びかけ回収活動を行った。回収後は、明和製紙の協力のもと、自分たちで集めた古紙の量を計測した。それがトイレットペーパー60個に生まれ変わり、そのことで2本の木が切られることを防ぐことができることを知った。

廃食油のリサイクルについては、家庭で出る廃食油がバイオディーゼル燃料にリサイクルでき、それが市内を走るバスやパッカー車の燃料に変わることを知り、温暖化防止や水質汚染を防ぐことにつながると考え、全校に呼びかけ回収活動を行った。回収後は、学区にあるDOWAバイオディーゼル株式会社の協力のもと、自分たちで集めた油の量を計測した。その際には、自分たちの集めた油が福島小学校区内の1日のゴミを集めるために必要なバイオディーゼル燃料相当の量になっていたことを知った。

児童は地域とつながりながら活動を進めてきたので、地域の環境保全に目を向けることができたとともに、古紙や食廃油を捨てずにリサイクルしたり、節水や節電を意識するようになったり、自分たちの活動が地域の環境問題の解決に役立っていることや地球規模で環境問題を解決していく必要性を感じ、生活を見つめ直すことができた。

(2) 活動時間について (下記から選択して下さい。)

- 通常の授業時間を使用 (総合的な学習の時間を含む)
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他 ()